

第4回小郡市男女共同参画社会推進審議会 会議概要

○日時

令和元年8月22日（木）10時00分～11時30分

○場所

小郡市役所 西別館3階会議室

○出席委員（敬称略・50音順）

井上、奥村、柏、楠、野口、福永、本郷、松尾、村山、米倉

○事務局

山下経営政策部長、高田秘書広報課長、天野

○次第

- 1 会長あいさつ
- 2 経過
- 3 議題

(1)第2次小郡市男女共同参画計画 平成30年度実施状況報告について

(事務局説明)

(議長)

ご意見・ご質問はないか。

(委員)

資料1の4～5ページが学校に関する内容になっている。学校の教師は、男女はほぼ同数。小学校では女性の先生の方が多いくらい。LGBTQの学習も進めている。男女の区別はなくなりつつある。2014年頃に男女混合名簿にしたいと言ったら、当時の教育長から地域にはしっかり話をしておくように言われた。

地区の懇談会の参加者について、校区によっては男性ばかりのところもあった。資料2について、まちづくり協議会や学校評議会（学校運営協議会）でも男性が多い。自分

の子どもの小学校の保護者会に参加した時には、保護者に向けて「お母さん方からご意見はありませんか」と言われた。保護者会に参加するのは、母親という思い込みがあるようだ。

(委員)

LGBT など保護者向けの講演などはあるか。

(委員)

学校によっては、地域の人も含めて講演会をしたことがある。また、制服については女子生徒用のスラックスを検討している学校もある。

(委員)

他市では既に採用しているところもあるようだ。

(委員)

わかりやすいのは数値だが、審議会等委員における女性の割合が昨年より減少している。委員に女性が入っていないところがある。女性を必ず1人は入れるようにしたらどうか。全体の3割いないと少数派は意見を言いにくい。すべての審議会で3割以上に決めるなどしてはどうか。そういうことをしない限り目標達成は難しい。

(委員)

女性が0の審議会等が多い。もともと人数が少ないところが0になっている。今、いろいろなところで女性がリーダーを目指せるような研修や講演もあっている。せめて一人は女性を入れてほしい。

(事務局)

昨年度の計画の見直しで数値目標が今年度から40%となっている。その中で数値が下がってしまっている。拠点都市対策協議会や城山公園整備促進協議会では地域役職の方が出るようになっている。地域の役職者に女性が少ないことが原因になっている。そういったところから呼びかけが必要だと思う。

(委員)

魅力化計画などで新しいボランティア団体ができている。こういったグループに情報を渡すことで、公募などに出てもらえないか。積極的に活動しているグループが増えているので、声をかけてはどうか。

(事務局)

市でフェイスブックやツイッターなどの SNS を始めているので、そういったところも利用して情報を出していきたい。

(委員)

積極的に情報を出されているので、小郡市の情報が入りやすくなった。

(委員)

パブリックコメントの意見が出なかったと報告があったが、期間も短く気づきにくいので、SNS でパブリックコメントの募集を流してはどうか。

(事務局)

周知の仕方については担当課と協議したい。

(委員)

パブリックコメントについては、意見をいうことによって、どうなるのかを伝えることが大切。

(事務局)

パブリックコメントでいただいた意見には回答を公表している。

(委員)

審議会の委員は担当課が選出していると思う。あて職の場合は、秘書広報課に情報があがってこないのではないか。女性が 0 の審議会等は事務局から関わる必要がある。秘書広報課から意見を言っているのか。

(事務局)

改選時期には、担当課への状況等の聞き取りを行っている。その中で、団体依頼をしても出せないという現状があるということだった。最低でも 0 はなくしていきたいが難しい現状がある。

(委員)

男性でなければいけないところはあるか。規定をつくり、どうしても達成できないところは理由を聞くようにしたらいい。

(事務局)

見直しの際に、公募の委員を入れてもらい、依頼する団体の見直しも検討してもらいたいと考えている。弁護士の方については、弁護士会に依頼をしたりするが、女性の弁護士さん自体が少なく依頼が集中するという難しさもある。

(委員)

地域役職者へのあて職が多いと思う。地域リーダーへセミナーの呼びかけはしているようだが、女性登用の依頼はしていない。女性協議会の啓発活動(寸劇)もあるが、次のステップが必要ではないか。小郡市では変わってきた区もある。女性区長が2名いる。地域によっては会計や他の役職に女性が就いているところもある。パートナーシップなどで活躍を紹介してはどうか。

(委員)

講演会の際に託児を開催しているという報告がある。一人でダブルワークしている人もたくさんいる。子育て世代が参加しやすいように、という配慮だと思うが、これからの方向性としては仕事をしながら介護をしている人など、ダブルワークやトリプルワークをしている人への配慮も必要になってくると思う。意見としてあげておきたい。

(2)第2次小郡市男女共同参画計画 令和元年度重点施策について

(事務局説明)

(委員)

審議会等委員に占める女性の割合の目標を40%に引き上げているが、内容が昨年度と全く同じ。

(委員)

女性協議会へ審議会の団体推薦の依頼がくる。女性協議会は委員が少なく、一人で3つの審議会に入っていたりする。なり手がいない状況にある。女性協議会に入っているから自分も男女共同参画の審議会や区長を引き受けたが負担感がある。女性は家庭のことも引き受けているという現状がある。自分の知識を増やすために、講座などへの参加はいくつになっても必要だとは思うが。

(委員)

女性協議会は人材不足になってきているというところに問題があると思う。行政は女性協議会だけでなく別団体へ声をかけることはできないか。

(委員)

審議会などを知らない人が多いのではないか。

(委員)

公民館長はよく団体を知っている。そういったところから幅広く情報を得るといい。

(委員)

「審議会等委員への女性の登用の割合」については、昨年度と全く同じ文言だがいいのか。

(委員)

「女性委員0%の審議会等をなくす」などどうか。

(委員)

「新たな関連団体の開拓」など依頼する団体についてはどうか。

(委員)

この時間帯に審議会を開催すると仕事をしている人には厳しい。夜に審議会をしているところもある。

(委員)

女性は家庭のこともあるので夜の時間も難しいのではないか。公民館などで60歳以上の退職された人が活動されている人がいる。女性の方を中心に活動しているところもある。

(委員)

重点施策の3について、味坂校区では9月に小学生の合宿が行われている。ここでは、コミュニティセンターに3泊4日で寝泊まりをしながら通学する。男女がともに朝ごはんと夕ご飯を自分たちでつくる。自分で経験することが大切だと思う。

(委員)

小学校の授業では、LGBTQを取り扱う。学校によっては保護者など含めた講演会がある。ランドセルの色も男女での区別はなく様々になっている。保健の教科書では、心の性と体の性が違う、という記載がある。イラストでは、赤ちゃんを抱えているのが男性だったり、女性が青い服を着ていたり、ジェンダーの視点が見られる。教科書の選定は選定委員会で決まるので現場の意見は反映しづらいが、一般の人の閲覧もできる。意見

があれば言っていただきたい。

他市町村では、職員室内でいまだにセクハラ、パワハラがあるようだ。教室で子どもに言っていることを自分たちができていない、という現状がある。地域によって差があるようだ。

(委員)

重点施策の3は昨年から内容が少し変わったようだが、その主旨はどのようなものか。

(事務局)

地域だけでなく家庭に性別による固定的役割分担意識が残っている。女性協議会が寸劇のテーマとして取り入れている。家庭の中での男女共同参画に力を入れる必要があるため、地域だけでなく家庭も入れた。

(委員)

職場の話がでたので、重点の中に「職場」を入れてはどうか。

(委員)

「企業」ではなく「職場」にしてはどうか。

(議長)

意見があったとおり、重点施策の3は大項目を「地域や家庭、職場における男女共同参画の推進」とし、説明文の中にも「職場」という言葉をいれるところをお願いしたい。

(委員)

審議会等委員に占める女性の割合の目標を40%以上とするが数字だけになっている。何も提案がなく目標数値をあげるのか。具体的なところを入れてはどうか。現場で女性にお誘いをするのは難しい。具体的にどうするのかあれば現場は動きやすい。

実際のところ、市のいろんなイベントや事業で関わっている男女比がどうなっているのか気になる。市のボランティアでたくさん関わっている人がいる。女性が動きやすい時間帯で行われているものには女性が多いのではないか。

(委員)

重点施策の2について、「努める」ではなく、具体的に「30%以上とする」とした方がいいのではないか。

(委員)

ソフト面では誘い方などがあるが、数値を達成したところに補助金を出すなど、何か具体的にできることはないか。

(委員)

市内でどんな活動をしているグループがあるか分からない。ホームページにグループ活動を掲載してはどうか。掲載することでグループに入っている方がホームページを見に来る機会が増え、審議会委員の募集記事なども目につきやすくなるのではないか。人材発掘ということを重点施策に入れられないか。

(事務局)

市民提案型授業で関わった団体はその後の支援もしているようなので、活動を紹介するページを持つなどしてもよいかもしいれない。担当課に話してみたいと思う。

(委員)

人材を発掘するのが大事だと思う。いろいろな団体をまとめているような課はあるか。

(事務局)

生涯学習課、コミュニティ推進課になると思う。

(委員)

民生委員は女性の方が多いのではないか。

(委員)

6割が女性。なり手が少なくなってきてはいる。

(委員)

子ども会は女性が多い。活動している女性は多いと思う。

(委員)

審議会があることを知らない人が多い。

(委員)

会議の時間や会場を工夫するなど文言を入れてはどうか。委員にご年配の方が多いようであれば近くの公民館で開催するなど審議会の集まりに応じて配慮するようにはどうか。

(議長)

この審議会の意見としては、重点施策をもっと踏み込んだ内容にしてほしい。

団体から推薦をもらう際に、団体内の女性をお願いするようにしてはどうか。もっと強く依頼をするような内容にしてほしい。40%を達成しましょう。内容については事務局にお任せする。

(事務局)

より強くでるような内容を再検討する。

4 今後のスケジュール

(事務局説明)